

## 平成 2 3 年度第 2 回経営向上懇話会でいただいた意見に対する取組状況について

(平成 2 4 年 2 月 3 日開催)

平成 2 4 年 7 月現在

## 【広報戦略について】

(広報体制に関するご意見)

ご意見	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>県庁の全組織を挙げて取り組むべき</u>。担当部局以外から人を呼び寄せて“支援隊”を形成したり、企業への協力依頼活動などで他部局の力を借りて取り組む体制づくりが重要。</li> <li>・ <u>県職員全員が広報マンになる気で取り組んでほしい</u>。</li> <li>・ <u>経済団体、NPO、自治会、学校などをフルに使ってPRすべき</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開館時期には、式年遷宮を始め三重を内外に発信できる様々な出来事・イベントがあります。そこで、観光キャンペーンを実施する観光局や、三重の魅力や価値を全国でPRしていくことを目的に本年度立ち上げた「三重県営業本部」と連携して県内外に広報を展開していくほか、各部局が県内各地で実施するイベント等に積極的に参加するなどして、広報を展開していきたいと考えています。</li> </ul> <p>[参考：開館時期（平成26年）前後の主な出来事]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>式年遷宮（平成25年）</li> <li>現三重県立博物館60周年（平成25年）</li> <li>三重県博物館協会40周年（平成25年）</li> <li>斎宮歴史博物館開館25周年（平成26年）</li> <li>・三重県総合文化センター開館20周年（平成26年）</li> <li>熊野古道世界遺産10周年（平成26年）</li> <li>美し国おこし・三重「集大成イベント」（平成26年）</li> <li>・ また、館長自らが各地に出向き、新県立博物館の上手な使い方などについて講演する「館長出張講演会」を昨年度から実施しており、商工会議所やロータリークラブ、自治会、学校（PTAや学童保育）の会合などに出向き、関係者への周知や博物館活動への参加を呼びかけているところです。</li> </ul>

(来館者を増やすための取組に関するご意見)

ご意見	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>通常の博物館では見ることができない収蔵庫など「裏の見学ルート」を設定してはどうか。入ることはできなくてもガラス張りにするなど考えてみてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収蔵資料の保管環境保全の観点から、開館後の収蔵庫見学を日常的に実施することは難しい状況ですが、期間や場所を限定するなどしてバックヤードツアー等の実施について検討していきたいと考えています。</li> <li>また、建設現場の見学会など、普段なかなか見ることができない開館前の博物館の姿を見ていただく機会は、今後も適宜設定していく予定です。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「体験できる博物館」の取組の一つとして、「解体プロジェクト」をしてはどうか。家、船、電化製品などを実際に解体してみるもので、その指導は専門家や企業がボランティアで参加してもらおう。</li> <li>展示内容を見て詩人が詩を書き、それを一緒に読むというイベントを行っている館もあるので参考にしてはどうか。</li> <li>海外では、博物館や美術館で結婚式をしており、参考にしてはどうか。ミュージアムグッズも引き出物のような感じで使うこともできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新県立博物館は、展示だけにとどまらない、多彩な催しも実施することとしており、事業構築にあたっての参考とさせていただきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>総合文化センターでのイベントに来た人に対して、そのチケットを持っている人は割引になるような制度をつくってはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、入館チケットの種類やその料金体系などを検討することにしており、他館との連携チケットについても検討します。(現在の検討状況は資料2のとおり)</li> </ul>

(広報ツール等に関するご意見)

ご意見	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>広報戦略をどうやって見せるか、見せ方の戦略が必要。最近の新県立博物館の発行物には4コマ漫画が描いてあるが、今までの博物館にはない取組であり、面白</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漫画については、各種チラシや「新県立博物館NEWS」へ掲載しているほか、「ミュゼ」にも取り上げていただく等、概ね好評を得ているところです。引き続</li> </ul>

<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>楽しく読める広報誌</u>があると多くの人が持って行ってくれる。</li> </ul>	<p>き、興味を持っていただけるような方法を工夫しながらで広報に取り組んでいきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チラシ毎にフォントや色が異なっており、同じ新県立博物館の事業であることが分かりにくい。<u>同じマークを入れたり、色合いを揃える</u>など、「必ずこれを入れる」というものを決めた方がよい。</li> <li>・ <u>統一イメージ</u>をつくるにあたってはプロに頼んだ方がよい。経費は縮減しつつも、金をかけるところはかけるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ みえ マイ ミュージアム(MMM)プロジェクト)の事業について、統一カラー(スカイブルー)のマークを採用し、統一感を持たせるようにしています。</li> <li>・ 開館に向けて広報を本格化させていく中で、新県立博物館全体についての統一ロゴや統一カラーの採用についても検討していきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>愛称、キャラクター</u>の参考となる事例として、東京都港区の麻布フェスタの取組がある。フェスタのキャラクターを子どもたちに募集して、応募者には参加証を、選定した6件についてはメモ帳に印刷して子どもたちに配っている。これは、<u>正式なキャラクターを選ぶために実施しているのではなく、子どもたちの参加の証として実施している</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ MMMプロジェクトの一つとして、愛称やキャラクターの募集も検討しており、実施にあたっての参考とさせていただきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページ、スマートフォンなど、<u>ウェブを有効に活用</u>してはどうか。例えば、ホームページ上で新県立博物館の疑似体験ができるようにしてはどうか。ウェブをうまく使えば、若い世代に口コミで広がっていく。</li> <li>・ 博物館、美術館について書き込む有名なブロガーがおり、その評価を見て来る人も多い。こうした<u>ブロガーを一度招待</u>してみてもどうか。</li> <li>・ 新県立博物館ができる面白いということを実感してもらうことが必要。「具体的にこんなことができる」「こんなことをしてみたい」という夢をネットで出し合って、博物館の中身を面白く語るこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「三重の文化メールマガジン」や「三重の文化ツイッター」を活用して情報発信を行っているほか、今年2月に実施した「みんなで作る博物館会議」では、会議の状況をツイッターを使ってリアルタイムで発信し、約70名からのフォローをいただくなど、試行的な取組も行っており、インターネット等を活用した情報発信の充実について引き続き取組を進めます。</li> </ul>

もこれから必要。	
----------	--

(多様な主体との連携に関するご意見)

ご意見	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛知県長久手市に「文化の家」という施設（ホール）があるが、隣に愛知県立芸術大学があり、<u>色々なデザインを学生がやっている</u>。学生にとっても実績を積めるので就職に有利という相乗効果も出ている。</li> <li>・ <u>県内博物館にとって、新県立博物館ができて自分たちも良かったと思えるような連携が必要</u>。例えば、<u>共通チケット</u>の設定などによって入館者が増えることが見込まれれば応援してくれるのではないか。</li> <li>・ 県内の博物館どうしが<u>共同で直近の展示会案内パンフレット</u>をつくるなど、独自の取組もしているが、新県立博物館もぜひ一緒にやってほしい。</li> <li>・ 企業に「関係ない」と思われないようにするためには、<u>県内の主な企業にフェイス to フェイスで訪問</u>した方がよい。</li> <li>・ <u>企業に関わりの深い資料を、企業や地域の「宝」と位置づけて、企業の記念日などに展示</u>することもできるのではないか。</li> <li>・ 博物館が<u>県の政策決定にあたってのシンクタンク機能</u>を持つことができれば、博物館、県ともにプラスとなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新県立博物館では、博物館単独での展示や事業だけではなく、サポートスタッフや地域住民グループなど県民の皆さん、地域の博物館・資料館、まちかど博物館、企業、学校、大学、行政機関などの多様な方々・団体との協創や連携による展示や事業を展開することとしています。</li> <li>・ 例えば、他館との連携チケットや共通パンフレット、県内企業の資料を活用した展示の実施など、実現に向けて検討を進めます。</li> <li>・ また、参画の具体的なメニューを準備し、個別訪問や館長出張講演会等において随時呼びかけるほか、MMMプロジェクト等も活用しながら、連携による取組も実施していきます。</li> </ul>

【多様な収入の確保策について】

(収支見込み、収入の確保策に関するご意見)

ご意見	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合文化センターには年間100万人以</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いただいたご意見や現在進めている運営</li> </ul>

<p>上、県立美術館にも年間12～13万人の来館者があるのだから、<u>入館者予想数をもっと多く見積もってもよい</u>ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>事業等収入や寄付について、見込額が少ない</u>ではないか。</li> <li>・ 支出面について、展示の企画運営費をはじめとする<u>事業費が少ない</u>ではないか。</li> <li>・ <u>ミュージアムショップ</u>について、収入には挙がっているが、仕入れ等も必要であり、支出に挙がっておらず<u>精査が必要</u>。</li> <li>・ 広報に力を入れるには<u>広報宣伝費が少ない</u>ではないか。</li> <li>・ <u>会費や協賛金の集め方</u>にもアイデアが必要。最近の経済情勢の中で、企業が毎年10万円出し続けることは難しい。3万円や5万円に設定して、<u>幅広く集めることに重点を置いた方がよい</u>。</li> <li>・ 県内の企業、団体から<u>お金をいただきながら、これらの活動内容を紹介する場</u>としてはどうか。</li> <li>・ <u>封筒に企業の宣伝</u>を入れ「新県立博物館を応援しています」と印刷することも可能ではないか。</li> <li>・ <u>画像資料の使用料</u>について、東京国立博物館では1回20万円もする。使う側の視点としては、<u>小さな企業にとっては高いハードル</u>である。</li> <li>・ <u>収入をいかに増やすか</u>が最重点課題であり、トップは「営業部長」という意識で取り組んでほしい。例えば、「県を挙げて」の取組の一つとして、毎年県職員がパスポート券を購入したら、これだけで相当な収入となる。</li> </ul>	<p>方針等の検討内容を踏まえてさらなる支出の精査を図ります。併せて、いただいたご意見等を参考に、多様な収入を確保するためのしくみ（寄付、協賛等）の構築を進め、企業訪問等やMMMプロジェクトの活用により、企業等への働きかけを実施する等取組を進め、収支計画を具体化していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なお、多様な収入を確保するための取組状況については、前回の懇話会でいただいたご意見等も踏まえながら検討し、その進捗状況については、次回の懇話会でご報告したいと考えています。</li> </ul>
---	---

(入館料に関するご意見)

ご意見	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもは安くすることが前提となっている感がある。子どもの権利という視点からは、子どもと大人はパートナーであり、子どもだけ特別扱いするのはどうかと思う。特別扱いしないことで対等の意識が育つ。そこで、例えば子どもから全くお金を取らないのではなく「<u>家族券</u>」のようなものを設定してはどうか。</li> <li>・ <u>子どもをたくさん連れてきたら安くする</u>というのはどうか。</li> <li>・ <u>高齢者割引</u>は不要ではないか。</li> <li>・ <u>展示会の初日のチケットや、一般よりも早く入館できるチケット</u>を設け、<u>価格を高く設定してはどうか。</u></li> <li>・ <u>リピーターを増やすためには、通常料金を仮に500円としたならパスポート券を1,000円として、必ず3回来たいと思わせる設定が必要。</u>さらに来館回数が増えればお土産を渡すことも考えてはどうか。</li> <li>・ <u>総合文化センターでのイベントに来た人に対して、そのチケットを持っている人は割引になるような制度をつくってはどうか。</u>(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いただいたご意見については、入館チケットの種類やその料金体系等に関する今年度の検討の中で参考とさせていただきます。(現在の検討状況は資料2のとおり)</li> </ul>

(事業や運営の実施体制に関するご意見)

ご意見	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外と比べると、知的スタッフの数は十分の一程度である。<u>人員をあまり減らすのは良くない</u>と思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いただいたご意見については、今年度とりまとめることとしている運営形態や運営体制等に関する方針や制度の構築にあたっての参考とさせていただきます。(現</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数多くの展示や事業が設定されており、これらを限られた数の学芸員が担当するのは大変。設定された学芸員の数は最小限と思う。</li> <li>・ 展示に多大な労力がかかるのであれば、展示という形態だけでなく講座を数多く設けるなど、参加型の企画を増やしていくことを検討してはどうか。</li> <li>・ 展示や事業をすべて学芸員が行う必要はなく、外部から企画を募るのも方法。主体になり得る人はたくさんいる。</li> <li>・ 愛知県武豊町民会館では、NPOと行政職員が同じ部屋、同じ机で仕事をしており、これが重要。</li> <li>・ 総合文化センター、県立美術館、新県立博物館について、運営はそれぞれが行いつつ、管理については3者で一体として考えてはどうか。コスト削減した分を事業費に持っていくべき。</li> </ul>	<p>在の検討状況は資料2のとおり)</p>
--	------------------------